

まちづくり福井25周年記念誌

MACHIZUKURI
FUKUI

25

YEARS
ANNIVERSARY



MACHIZUKURI
FUKUI
まちづくり福井

まちづくり福井25周年記念誌





目次

03 沿革

【 中心市街地活性化のために 】

04 会社設立の背景

05 会社設立の経緯

06 福井まちなか文化施設響のホール ～ にぎわい創出の拠点へ～

●《インタビュー》木戸西秀一さん

08 まちなか回帰への取り組み

●各種ハード事業～まちなか回帰への環境整備～

●すまいるバス運行～まちなか回帰への交通整備～

10 イベントを中心としたにぎわいづくり

●イルミネーション事業、ドニッチョ祭

●福井どまんなか祭、私のいちおしのお店

●ふくいえきまえ音楽祭、えきまえアントレキッズ、歩くぞふくい

●各種広報（COM×COM、THE EKIMAE PRESS、A.S.Bnet）

●まちのとおきおきスポット100選、食べてみナイト、まちフェス

16 まちづくり福井株式会社の設立を振り返って

●《福井市役所職員鼎談》西行茂・福井市長、橋本亜由美さん、山口秀明さん

●《インタビュー》高橋栄次郎さん、長谷川玲子さん

【 まちのプレイヤーが活躍する“場”づくり 】

22 まちのプレイヤー育成へ

●福井市中心市街地開業促進事業、まちの担い手プロジェクト

●リノベーションスクール@福井、Discover: 福井

24 活動の“場”づくりへ

●ソライロテラス、まちなかステージ、アクアテラス

●ONE PARK FESTIVAL

27 指定管理による基盤づくり

●福井市にぎわい交流施設

●《インタビュー》木村郁夫さん

●福井駅西口地下駐車場、共通駐車サービス券

30 [寄稿] まちに関わる人と場所をつくること

岩崎正夫・まちづくり福井株式会社元会長

【 北陸新幹線開業を契機としたまちづくり 】

32 県都にぎわい創生協議会設立

33 県都グランドデザイン（抜粋）

37 組織体制の強化

38 県都グランドデザインの実行

●県都まちなか再生ファンド、コソジナガヤ

●ヨリバ、FUKUMACHI BLOCK、ULO

●福井市観光交流センター、ふくみち

●福井駅前商店街振興組合

44 [寄稿] 経済界から期待するまちづくり福井の姿

八木誠一郎・福井商工会議所会頭

48 これからの中心市街地活性化に向けて

松尾大輔・代表取締役社長

50 事業一覧

54 役員一覧

25周年記念誌 に寄せて

代表取締役社長 松尾大輔



『まちづくり福井株式会社』の設立から25年の月日が経過しました。福井の中心市街地を何とかしたいという先達の熱意と覚悟の足跡を節目の年にまとめておきたいと考え、25周年記念誌として編纂を行ないました。この編纂において、お時間をいただき取材にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

このまちで25年、弊社が取り組んできた事業は事業一覧にもあるとおり多岐に渡り、時代の流れとともに変遷してきました。会社設立当初は、「福井市中心市街地活性化基本計画」に基づき、響のホールの建設や商店街アーケードの整備、すまいるバスの運行などを進め、にぎわりづくりのために様々なイベントも開催しました。その後、より持続的なまちづくりの観点から、まちのプレーヤーの育成やプレーヤーが活躍する場づくりに力を入れ、「都市再生推進法人」としてソライロテラスなどの公共空間の利活用や福井市にぎわい交流施設（ハピテラス、ハピリンホール）などの公共施設の指定管理にも取り組んできました。そして、北陸新幹線の福井敦賀開業を見据え、福井県、福井市、福井商工会議所等により「県都グランドデザイン」が策定されたことに伴い、弊社はその実行を担うエリアマネジメント組織として組織体制を強化するとともに県都まちなか再生ファンドの事務局やU L Oの運営など事業の拡充を進め、新幹線とともに歩むにぎわいづくりを進めています。

「まちづくり」とは？

福井のみならず、今、日本各地のまちが同じ課題に直面しています。ハコづくりやイベントづくり“だけ”では、決してまちづくりは完結しない、それは分かっているが、ではあと何が必要なのか。これさえやっておけば大丈夫、という「正解」のない中、それぞれのまちがそれぞれのやり方で模索を続けています。

その中で弊社は、まちの小さな「種火」を丁寧に紡いでいくことをまちづくりの基礎としています。まちの主役はまちで暮らす一人ひとりです。福井は人口規模の小さい地方都市ですが、まちを元気にしたい、盛り上げたいという思いやアイディアを持った方はたくさんいらっしゃいます。そうした、ひとりでは小さい、けれども熱い、そんな

「種火」を丁寧に丁寧に紡ぎ、少しずつ周りの人々を巻き込みながら大きな炎に育てていく、そのお手伝いこそが弊社の役割であると考えています。

また、25年前、会社設立時には積極的な公共投資の対象となった「中心市街地」についても、今では、なぜ投資すべきなのか、改めてその必要性が問われています。

弊社では、持続的なまちづくりのためには持続的な地域経済の活性化が必要不可欠であると考えています。

そして、マーケット自体が縮小していく人口減少社会において、「大都市VS地方都市」や「中心市街地VS郊外」のような対立構造に基づく地域経済へのアプローチでは、いずれ共倒れの運命が待ち受けています。これからは、ヒト、モノ、カネ、情報などの限られた資源をいかに対流、循環させ、地域全体の経済を動かしていくかが大切です。その時に必要となるのが、対流を引き起こす「核」です。地球内部のマントル対流のように、高エネルギー、高密度の核があつてはじめて対流が生まれます。福井の中心市街地が地域経済の対流を引き起こす核の役割を担うことができるならば、引き続き、公共投資の対象となる意義があると考えています。新幹線駅を中心とする交通結節点や官公庁の集積地としての機能だけでなく、小さくても面白い店、人、場所が密度高く集積し、出会いやイノベーションを求めて、このまち自体を目的地として多様な人々が集う、そして、人々を通じて地域全体にエネルギーが伝播し、経済が活性化する、そうした姿が弊社の目指すこれからの中心市街地の在り方です。

「まちづくり」に終わりはありません。

50年後、100年後のまちの姿を常に考えつつ、明日のにぎわいづくりに全力を尽くす、その日々の積み重ねの先に未来が拓けると信じています。

そのためにも、弊社スタッフ一人ひとりがまちへ出て、少しでも多くの方々と対話し、まちの切実な声を聞くとともに、まちの未来を皆様と語り合いたいと考えています。

まだまだ至らぬ点も多いとは思いますが、これまで同様、厳しくも温かく見守り、育てていただけますと幸いです。このまちで、皆様とともに、これからも、「まちづくり」という正解のない課題に挑み続けます。